

二〇一〇年度 一般三月入学試験

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

5

49

)

第一問

次の文章は、恩田陸の小説『蒲公英草紙 常野物語』の一節である。聡子は東北の名家、楨村家の娘で、画家の椎名や仏師の永慶とともに楨村家に寄食している。「私」は、身体の弱い聡子の遊び相手として、楨村家を訪れていた。これを読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

「永慶様、椎名様が聡子を描いてくださつたんです。ね、見てください、すごいでしょう」

聡子様は励ますような明るい声で永慶様を手招きして、縁側に広げてある絵に両手を広げてみせました。やはり永慶様も御覧になりたかつたのでしよう、釣り込まれるように縁側に近寄つてこられました。

(2)「これが西洋画というものですね」

思わず感きわまつたように言葉を漏らし、熱心に御覧になつておられます。それまでのはにかんだ表情が見る見るうちに研ぎ澄まされた真ケンなまなざしに変わつてゆくのを、椎名様がじつと見つめています。

(5)「ふうん。さすが、いっぱしの仏師の目をしてるじゃないか」

(6)永慶様はハツとして椎名様を振り返りました。

「そんな男が、なんでこんなところで草取りなんかしてるんだらうね」

椎名様は再び木炭を手に握り、帳面の上で走らせながら吐き捨てるように呟きました。

「まあ、僕も君に偉いことを言えた義理じゃない。所詮同じ穴のむじなかもしれないがね——どうだい、ここで君も聡子様を描いてみないかい？」

聡子様に目をやつたままそうおっしゃると、永慶様は見る見るうちに青ざめました。

「わたくしは——わたくしはもう——」⁽⁹⁾

消え入りそうな声にかぶせるように、椎名様は堅い声で続けます。

「めったにお目にかかれない旦那様のお嬢様だよ。君、この聡子様を目の前にして描かずにいられるのかい？　さんざん仏を彫らされて、年寄りにあがめられてるうちにおまえさん自身の絵心をなくしちゃまったんだらう？」⁽¹⁰⁾

「まあ、永慶様に聡子を描いていただけなんて、お父様もきつと喜びます」⁽¹¹⁾

聡子様は二人の間のぎくしゃくしたものを振り払うように、一生懸命はしゃいだ声をあげ、永慶様に微笑みかけておられます。永慶様は唇を一字に結んで、青ざめた顔のままじつと自分の足元を御覧になっていました。聡子様はハラハラしながら心配そうにその横顔を見つめています。⁽¹²⁾

やがて、永慶様は決心したように顔を上げると、「手を洗って参ります」と短く言つて素早く立ち去りました。

椎名様は表情を変えずにきばきと絵を描き続けています。暫くして、筆と墨入れと紙を持った永慶様が足早にやってきて、椎名様の斜め後ろに腰を下ろしました。椎名様は振り返りもしません。私は邪魔にならないよう、そつと立ち上がつてお二人の後ろに立ちました。

永慶様は、庭に立っていたおどおどした青年とは別人のようでした。⁽¹³⁾ 先程椎名様の絵を見つめていた時のような、研ぎ澄まされた横顔が冷たい光を放っているかのようです。けれど、椎名様がどちらかと言えば攻撃的な雰囲気なのに比べて、永慶様はどことなく祈るような表情なのが印象的でした。

聡子様はお二人に真正面から見つめられて、些か緊張した面持ちで座つていらつしやいます。

永慶様は小さく合掌してから筆を手に取りました。

お二人の描き方も対照的でした。椎名様は相変わらず凄早い早さで木炭を走らせていらつしやいますし、永慶様はきちんと膝に手を揃え、じつと何かを納得するまで聡子様を御覧になつてから一筆一筆丁寧に筆を入れてゆかれます。

「僕はね、日本画というものが嫌いなんだよ」

独り言のように権名様が呟きました。永慶様も聡子様もハツとしたように権名様の顔を見ます。権名様は絵に集中したままで言葉が続けました。

「いや、嫌いになったと言うべきかな——僕の祖父は絵が好きでね、素晴らしい日本画をたくさん集めていた。僕は祖父に絵の見方を教えてもらったんだよ。でも、うちの親父はとんでもない俗物でね。金儲けしか頭にない男なのさ。僕が絵をやりたと言ったら、ごくつぶしのろくでなしと言われてカン当さ。まあ、どうせ僕は三男坊だから家なんか継ごうにも継げやしないけど

ね」⁽¹⁶⁾
永慶様は興味を覚えたようにそつと顔を上げて聞き入っています。

「どうだい、君だつて目の当たりにしたろう？ ご維新だ、これからは西洋だ、と掌返してどいつもこいつもしたり顔に威張りだす。これまで拝んできた仏様だつて二束三文で売り出される。廢仏毀釈が叫ばれた時には、うちの親父は真つ先に書画や佛像をどこぞの顔の赤いあめりか人に売り払ったよ。もともと信心なんかこれっぽっちも持ち合わせちゃいない男さ。その場の目端ばかりで世を渡る男だからね。うちの親父だけじゃない、そういう連中が世の中にぞろぞろいたことにはほんとに驚いたよ。祖父が生きていなくて良かったとあの時ばかりは思ったね。祖父が大事にしていたものを親父が嬉々として処分してるところなんて、新政府に追い詰められたっていうじゃないか。いつたい日本人は何をやってるんだ」

権名様は苛立った様子で話を続けます。

「だから僕は洋画を学ぶことにしたのさ。今では日本画を見ると虫酸が走る。日本人は何も見ていない——日本画の人物を見てごらん、実物とは似ても似つかないだろう。奥ゆきもない、立体感もない、光と影もない、ただ平坦で薄っぺら。本物を見て描こうという志がない。せまいところで額を突き合わせて自分の知ってる花鳥風月を写してるだけ。その場の雰囲気が付和雷同して騒ぐ。まるで日本人のキョウ量さを表しているように見えるんだ」⁽¹⁹⁾

再び陰悪な雰囲気になりました。永慶様は顔を曇らせ、黙々と筆を動かしています。聡子様は困ったようにもじもじしていら

つしゃいます。なぜ椎名様はこんなことをおっしゃるのでしょう。私には、椎名様は永慶様に八つ当たりをしているように見え
ました。椎名様が何かに腹を立てておられるのは分かるのですが、それは永慶様自身に向けられているわけではなさそうです。

「——美術学校の、僕の尊敬している教授の部屋に、小さな木彫りの仏像があった」

椎名様は更に乾いた声⁽²¹⁾で言いました。

「教授は、日本における洋画の第一人者でいらしたけど、円空仏が好きで、自分のあと、えや机に何気なく飾っておられたよ。
その木彫りの仏像が見慣れないものだったので、僕が『新しく手に入れられたのですか』と尋ねたら、教授は『違う』と言われ
た。旅の途中で、道端で若い男が彫っていたのを気に入って無理にユズ⁽²²⁾ってもらったと言う」

永慶様がぎくりとしたように顔を上げました。

「教授は言われたよ。『御覧、⁽²³⁾ここには誰にも奪えない、昔からレン綿と続⁽²³⁾いてきた我々日本人の精神があるだろう、これはこ
れで正しいんだよ、こういうものはこういうもので続⁽²³⁾いていって、我々は更に新しいものを学んで大きくなって、ここに帰⁽²³⁾つて
くればいいんだよ』ってね」

⁽²⁴⁾永慶様は顔を紅潮させ、かすかに震えだしました。

「ね、君、分かるだろう？ ⁽²⁵⁾君にはこんなところで悠長に草取りなんかしてる暇なんかないってこと」

永慶様は膝の上で拳⁽²⁵⁾を握りしめ、暫く俯⁽²⁵⁾いておられました。私も聡子様もお二人の様子を見守ることしかできません。けれど、
お二人の間に何か深いやりとりがあったことは分かりました。それが、私たちが心配していたような険悪なものではなく、情感
に溢⁽²⁵⁾れた真摯なものであったということも。聡子様がほっとしたように小さくため息をつきました。

(恩田陸『蒲公英草紙 常野物語』による)

問1 傍線番号(1)「励ますような明るい声で永慶様を手招きして」とあるが、聡子はなぜこのような行動をとったのか。その理

由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

1

- ① 椎名が自分の絵を描いたという事実を淡々と伝え、修行半ばの永慶のさらなる発奮を促したかったから
- ② 自分に思いを寄せる椎名の前であえて永慶に声をかけ、永慶に好意を持っていることを示したかったから
- ③ 皮肉屋の椎名を前にして萎縮いしやくしている小心者の永慶を元気づけ、自信を取り戻させたかったから
- ④ 控えめな態度の永慶を勇気づけ、椎名の描いた絵を見るために前に出てきやすい雰囲気を作りたかったから
- ⑤ 椎名が自分の絵を描いてくれた喜びを永慶にも知らせ、みんなと一緒に絵を鑑賞したかったから

問2 傍線番号(2)・(6)・(8)・(9)・(12)のうち、傍線番号(13)の「おどおどした」態度に当てはまらないものを、次の①～⑤の中から

一つ選びマークしなさい。

2

- ① 思わず感きわまつたように言葉を漏らし、熱心に御覧になっておられます
- ② 永慶様はハツとして椎名様を振り返りました
- ③ 永慶様は見る見るうちに青ざめました
- ④ 消え入りそうな声
- ⑤ 青ざめた顔のままじっと自分の足元を御覧になっていました

問3 傍線番号(3)・(5)・(10)・(17)・(18)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。

3
7

(3) はにかんだ表情

3

- ① 悲しそうな表情
- ② 恥ずかしそうな表情
- ③ 満足そうな表情
- ④ 苦々しそうな表情
- ⑤ うれしそうな表情

(5) いっぱしの

4

- ① 一人前の
- ② 偉そうな
- ③ 威厳がある
- ④ 名高い
- ⑤ 練りあげられた

(10) あがめられてる

5

- ① 珍しいものとして重宝されている
- ② 好意的に評価されている
- ③ 便利なものとして利用されている
- ④ 尊いものとして敬われている
- ⑤ 役立つものとして大切にされている

(17) したり顔

6

- ① 物知りぶった顔つき
- ② 興奮した顔つき
- ③ うれしそうな顔つき
- ④ 動揺した顔つき
- ⑤ 得意げな顔つき

(18) 虫酸が走る

7

- ① 気が高ぶっていたたまれなくなる
- ② 苦しくて逃げ出したくなる
- ③ 不安で落ち着かなくなる
- ④ 恐ろしくて寒気がする
- ⑤ 嫌でたまらない気持ちになる

問4 傍線番号(4)・(15)・(19)・(22)・(23)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

8
12

(4)

真ケン
8

- ① ケン約して貯蓄に励む
- ② ケン道の防具をつける
- ③ インターネットでケン索した
- ④ 奉仕活動で地域に貢ケンする
- ⑤ それはケン明な判断だ

(15)

カン当
9

- ① 勇猛果カンに攻める
- ② 農業が国の基カン産業だ
- ③ これ以上カン忍できない
- ④ 諸般の事情をカン案した
- ⑤ カン散とした会場

(19)

キヨウ量
10

- ① 新たなキヨウ定を結ぶ
- ② 津軽海キヨウを船で渡った
- ③ キヨウ小な国土
- ④ 犯人からのキヨウ迫状
- ⑤ 敵をキヨウ撃する

(22)

ユズって
11

- ① ジョウ脈に注射する
- ② 過ジョウな消費
- ③ ジョウ石を踏襲する
- ④ 水質をジョウ化する
- ⑤ 尊敬語と謙ジョウ語

(23)

レン綿
12

- ① 古代エジプトに始まったレン金術
- ② 熟レンの技が光る作品に仕上がった
- ③ 企業と大学とのレン携
- ④ レン価で販売する店
- ⑤ 悲レンを描いた小説を読む

問5 傍線番号(7)「吐き捨てるように呟きました」とあるが、この椎名の心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤

の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 何事かを思い悩んでいるらしい永慶の姿に、芸術に行き詰まりそうな自分を重ね合わせて嫌悪感を抱いている
- ② 仏師としての修練を怠っているのに、聡子から氣遣ってもらっている永慶を、うらやましいと思っている
- ③ 西洋画のことを知らないのに、本質を直感的にとらえた永慶の才能を、ねたましく思っている
- ④ 永慶が、本来の仏師としての修練でなく、雑用に埋没していることをもどかしく思い、苛立っている
- ⑤ 永慶が、槇村家での処世を優先するあまり、すぐれた絵画の技術を隠していることを憎らしく思っている

問6 傍線番号(1)「二人の間のぎくしゃくしたもの」とあるが、この時の二人の様子を説明したものととして、最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 腰が低く控えめな性格のため聡子を描くことを躊躇ちゅうちゅうする永慶に対して、椎名は挑発し試そうとするかのような態度をとっている
- ② 万事に消極的なため聡子を描くことを固辞する永慶に対して、椎名はおどして自分に従わせようとするかのような態度をとっている
- ③ 実力が備わっていないため聡子を描くことを辞退する永慶に対して、椎名は侮辱して優位を保とうとするかのような態度をとっている
- ④ 聡子を描くという光栄に浴して興奮している永慶に対して、椎名は冷静に事態を受け止めさせようとするかのような態度をとっている
- ⑤ 自分に自信が持てないため聡子を描くことを嫌がる永慶に対して、椎名は優しく後押しして励まそうとするかのような態度をとっている

問7 傍線番号(14)「いや、嫌いになったと言わなければならない」とあるが、権名がこのように言う理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 投機目的で絵画の転売を繰り返す父によって祖父の日本画が次々に家から消えていくという経験を通して、絵画に対する興味を失ったから
- ② 目先の金銭や名誉欲にばかりとらわれた父をはじめとして、日本人が自分たちが作り出した伝統や文化を大切にしようとしないうちに失望したから
- ③ 絵画の価値など認めようとしないうちが祖父の大切な日本画を処分してしまったことに衝撃を受け、芸術というものに無力感を覚えたから
- ④ 芸術に無理解で祖父の愛した日本画を売り払った父への反発から画家を志したが、自分は実物の描写を追求する洋画の世界で大成したいと思ったから
- ⑤ 祖父が集めた日本画の素晴らしさや価値を理解せず、日本文化を否定して洋画を崇拜する父の姿に、肉親として耐え難い羞恥心しゆうちしんを覚えたから

問8

傍線番号(16)「永慶様は興味を覚えたようにそつと顔を上げて聞き入っています」から傍線部(20)「再び険悪な雰囲気になりました」に至る経緯を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 永慶は、椎名が日本画に嫌悪感を抱く理由を聞かされ、日本人は芸術に対して節操がないという指摘に同感したが、永慶自身も芸術を理解していないと決めつけられ、気分を害した
- ② 永慶は、日本画への屈折した思いの根底に椎名の経歴が影響していることを知って深く同情したが、過去にとらわれて苛立ちを募らせる椎名の言動は、やはり理解できないと思ひ直した
- ③ 永慶は、椎名が父親の影響で日本画を嫌悪するようになったという話に関心を抱いたが、徐々に攻撃的になっていく椎名の口調に、自分に対する恨みのようなものを感じ始めた
- ④ 永慶は、日本画を嫌う理由を語る椎名のお話を興味深く聞いていたが、話が熱を帯びて日本画への嫌悪があらわになるにつれ、不快感を覚えた
- ⑤ 永慶は、椎名が日本画を認めようとしないう理由を冷静に語るのので、つい引き込まれて聞いていたが、次第にいつもの感情的な口調に戻った椎名にはうんざりしてしまった

問9 傍線番号(21)「乾いた声」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

- ① 怒りをおさえた口調
- ② 感情の起伏を感じさせない口調
- ③ 苛立ちをおさえきれない口調
- ④ 熱っぽく語りかけるような口調
- ⑤ 挑発的で皮肉な口調

17

問10 傍線番号(24)「永慶様は顔を紅潮させ、かすかに震えだしました」とあるが、この永慶の心情の説明として、最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 若い男とは自分であり自分の作品を権名に酷評されるのではないかとおそれていたが、自分の仏像を教授が高く評価してくれたと知って感謝の念を抱いている
- ② 口が達者な権名に自分の作品を批判されるのではないかと想像しておびえていたが、権名の口から初めて自分に対する公平な評価を聞くことができ感動している
- ③ 権名の日本画への敵意に対して身構えていたが、木彫りの仏像にこめられた伝統的な日本人の精神を、洋画の第一人者が認めていると伝えられたことに驚き、感激している
- ④ 権名に道端で仏像を売るといふ軽率な自分の行動をとがめられたと思っ恥じていたが、自分の作品に深遠な芸術性を感じてくれる人がいたと知って安堵あんどしている
- ⑤ 教授に強く求められたとはいえ、未熟な自分が作った仏像を手放してしまったことを悔いていたが、その作品が権名を感動させたと知って内心得意になっている

問11 傍線番号⁽²⁵⁾「君にはこんなところで悠長に草取りなんかしてる暇なんかなくて」とあるが、この言葉で権名が永慶

に言おうとしたことの説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

19

- ① 草取りをするほど時間があるなら、洋画の教授だけでなく多くの人に木彫りの仏像の魅力を伝えるべきだ
- ② 芸術と無関係な無駄な時間を過ごしていないで、日本人の精神を込めた仏像を彫るための修練に励むべきだ
- ③ 一地方でぼんやりしていないで、上京して日本の芸術の発展のためにできる限りの力を尽くすべきだ
- ④ 世俗から離れ、世間とは隔絶された環境の中で、ゆつくりと仏師としての腕を磨くことに専念すべきだ
- ⑤ 安穏な環境で遊んでいないで、私と一緒に洋画も学んでその素晴らしさを日本文化に取り入れるべきだ

問12

本文の表現や内容についての説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

20

- ① 庭先の情景描写を交えながら淡々とした語り口調で書き進められ、芸術家たちの感性を通じてモデルの美しさを描いている
- ② 丁寧な言葉遣いで語られる登場人物の会話を中心に構成され、封建的な風土の中で生きる人々の苦悩や喜びを描いている
- ③ 田舎の風景描写と独特の方言を取り入れた会話によって、今日では失われた日本の原風景への郷愁を浮き彫りにしている
- ④ 椎名をことさら多弁な人物として寡黙な水慶と対照させて描くことで、二人が互いに理解し合えないことを強調している
- ⑤ 「私」の目からとらえた登場人物の表情や態度を丁寧に描き、異なる立場にある複数の人物の心情を浮き上がらせている

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

デモクラシーという国家体制は、その国家の全構成員が市民であることを前提にしている体制であるから——ちなみに、デモクラシーという語の意味は、庶民大衆(デーモス)の支配(クラティア)ということである——そうであれば、すべての構成員が判決と支配に参加できる公共的理性を所有していることを前提にしている。

そこに一定の国家構造があれば成立する、というものではない。その国家を構成している人間たちが公共的な事柄について判断能力も責任能力もたなければ、そのような国はただの有象無象の混乱した集団に過ぎないのである。

デモクラシーが成立するためには、その国家を構成している人びとが、人間の倫理の原理である正義について、また、その国家の構造、運営の仕方、その行くべき理想などについて明確な認識をもち、その認識にもとづいて行為し、変革し、国家を動かしてゆく責任能力をもっていなければならないのである。そのような市民が成立するためには、公共的理性を育成する教育が決定的に重要であることは、言うまでもない。上述のアリストテレスの市民の定義は、このような含意をもっている。

3、現実のアテネのデモクラシーには、その精緻な構造にもかかわらず、さまざまな欠陥があった。市民団からは、女性、奴隷、外国人は除外されていた。また、アテネはその繁栄の絶頂において軍事大国化し、侵略戦争を起こして自滅した。だから、以上に述べた市民の話は、歴史的事実を語っているのではなく、アリストテレスの考える理想国家の思想の延長線上の話である。しかし、それは、デモクラシーを限りなく良質なものにしてゆく努力のいや果てに現れてくるものなのである。

以上に述べたアリストテレスの思想の根底には倫理の基礎についてのかれの考えがある。それは、人間の生き方の基礎はエンドクサにある、という思想である。この点を理解するためには、プラトンの思想と対比する必要がある。プラトンは、倫理およびその延長上にある政治の原理は、「善のイデア」の認識にある、と考えた。おそらく、この思想自体には誰も異論をトナえな(5)いだろう。倫理と政治には、なにか決定的にアプリアリナ原理があるということ、それは、カントで言えば、定言命法である。しかし、この原理を認識し実行しうる人は稀にしかない、とプラトンは考えたのである。その稀な人が哲人王であり、かれに

政治の全権力を委ね、凡人大衆はかれの命令に従って生きるのがよい、というのがプラトンの政治思想であった。

これに対して、アリストテレスは哲人王のような人間は存在しえない、と考えている。なぜなら、人間は純粹理性ではなく、理性的動物だからである。人間を行為へと動かす動機から、情欲、物欲、怒り、権力欲を排除することは絶対にできない。それでは、善のイデアは人間のうちにないのか、と言えば、そうではなくて、おぼろげな姿ではすべての人びとのうちに
6

「人間性の活動が幸福である」とアリストテレスが言うとき、その人間性のうちには理性の囁く「正しき理」(orthos logos)も入っているのであり、ただ、凡人では、その声は微弱であり、大抵は動物的衝動の奴隷になっているだけなのである。東洋でも、「惻隱の情」⁽⁷⁾とか「慈悲心」とかいう言葉で、この人間に内在する「善のイデア」は言キユウ⁽⁸⁾されている。

そこで、アリストテレスはどう考えたか。多くの凡人大衆は、一人一人を見れば、みな、思慮の足りない、衝動的な、欲望的な、要するに、不完全な人間である。しかし、おぼろげには、わずかに、善を知っている。だから、多くの人びとが集まって是認した考えは、一つ一つはわずかでも、多くの耳、多くの目、多くの思慮が集まって、一つの巨大な思慮となったかのように働くのだ。それは、哲人王という一人の倫理的超エリート⁽⁹⁾の判断よりも、優れており、安定しているだろう。

なぜなら、哲人王といえども、人間である以上は絶対に腐敗を免れうる、と言うことはできない。むしろ、絶対権力を掌握した人間が腐敗しないことは、ほとんど不可能だ、とアリストテレスは言う。だから、もし万一哲人王が、権力の巨大さに目が眩んで、暴政を始めたなら、全権力がかれの掌中にあるがゆえに、その国民の悲惨さは測りがたいものとなるだろう。

10、凡人大衆が同時に情欲に狂い、怒りに捕らわれ、思慮を失うということは、ありえないことではないとしても、きわめて稀であるだろう。それは、ちょうど、小さな池はわずかの汚物で腐敗するが、大海は汚物が流れ込んでも全体としては清浄であるのと似ている、とアリストテレスは言っている。

以上が、エンドクサ(多くの人びとの是認する考え)を倫理・政治の基礎とするアリストテレスの思想の理論的根底である。そして、これがデモクラシーという政治制度を作り上げた土台でもあるのである。これを、現代的に言い直せば、すべての人間

は自由で平等であるから、自分の生き方およびその延長上にある国家のあり方を自ら決定する倫理的自律性と責任をもっている、ということである。

アリストテレスは人間を理性的動物と規定した。そうであれば、すべての人間が理性をもっているのだから、国家のあり方にも責任をもっている。すなわち、多くの人びとが、政治の理非曲直⁽¹¹⁾について対話し、試コウ⁽¹²⁾錯誤を繰り返しながら、少しずつ、善い国家、善い国際関係へと国を動かしてゆく。誰か偉い人が現れて、一どきに理想的な国家ができて上がる、などということはありえない。人間には絶対的真理は届かない。人間の営みは、つねに修理しつつ航海するボロ筏^(注5)の旅（第二の航海）なのであり、この不完全さを自覚した漸進的⁽¹⁴⁾前進がデモクラシーというものである。

ところで、アリストテレスがデモクラシーの理論的基礎を置いた、と言うと、専門家のうちには奇異に思う人がいるかもしれない。なぜなら、『政治学』で展開された思想では、額面上は、絶対王制が最善の国制であり、デモクラシーは、悪しき^あ国制のうちでは、もつともましな国制とされているに過ぎないからである。それゆえ、この点について一言しておかなければならない。アリストテレスはこう言っている。「もし、どこかに、人格識⁽¹⁵⁾ケンともに完璧⁽¹⁶⁾で、無シ⁽¹⁶⁾無欲な人間がいたならば、そのような人物に国家の支配を委ねるのが最善である」と。「なぜなら、そのような人間はあたかも神の如き者^{ごと}であるから、人間と同等に扱ってはならないからだ」と。

この発言の含意は、そのような人間は存在しないから、すべての人間は平等であり、したがって、国家はすべての人間の平等な支配権力に委ねられなければならない、という点にある。かれは、そのような国制をただ「国制」(politeia)と呼んでいるが、それが今日われわれがデモクラシーと呼ぶものである。

これに対して、アリストテレスが否定するデモクラシーとは、国家が少数の（たとえば、五パーセントの）富裕層と大多数の（九五パーセントの）貧困層に二極分解しているような国において起こる多数者の支配である。そのような国には、不満と怨恨^{えんこん}と軽蔑^{けいべつ}が渦巻き、絶えず内乱内戦の危険が潜んでいる。そのような国は、富裕層が警察力によって庶民大衆を抑圧する寡頭制になるか、その逆に、貧困な大衆が富裕層を抹殺して国の経済・文化水準を低下させる悪しき意味でのデモクラシーになるか、そ

のどちらかなのである。

これに対して、アリストテレスの肯定する「国制」(今日、われわれの語る「デモクラシー」とは、極端な富裕者や極端な貧困者ができるだけ少ない、ほとんどの市民がほどほどに豊かであるような国の体制である。そこでは、平均的な中間層 (meson) が国民の大多数を占める。そのような国では、すべての人が自由で平等であり、自分のやりたいことをやり、他人を羨ましがることがない)。

そのような人間はもつとも理性的に判断する能力を備え、国内的にも対外的にも、正義の原理に基づいて行動し、それによって、もつとも安定した国を作らうであろう。もちろん、このような国家の建設には、教育を始めとして、多大の倫理的な努力が要求されるだろう。しかし、デモクラシーとはそのような恐ろしい努力を前提とするものなのである。

(岩田靖夫「デモクラシー成立の基礎」による)

(注1) アリストテレスの市民の定義——アリストテレスが市民を「判決」(裁判) および「支配」(立法・行政) に参加するものとして規定していることを言っている。

(注2) エンドクサ——多くの人びとの是認する考え。

(注3) アプリオリ——先天的。

(注4) 定言命法——ある行為を、条件をつけず、絶対的に命令する道徳法則のこと。たとえば「汝殺すなかれ」の類。

(注5) 第二の航海——プラトン著『パイドン』による表現。

問1 空欄番号

1

3

10

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ

つ選びマークしなさい。ただし、重複は避けること。

1

21

3

22

10

23

- ① なぜなら
- ② そこで
- ③ もちろん
- ④ それゆえ
- ⑤ それに対して

問2

傍線番号(2)・(7)・(11)・(14)の表現の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

24

27

(2) 有象無象

24

- ① 形のあるものと形のないもの
- ② 取るに足りない多くの人びと
- ③ 落ち着きがなく騒がしい様子
- ④ 無法が横行する世の中
- ⑤ 欲望にかられる様子

(7) 惻隠の情

25

- ① 自我や物欲を包み隠すところ
- ② 理性によって己を律するところ
- ③ 苦しさを耐え忍ぶところ
- ④ 困っている者に同情するところ
- ⑤ 相手のよいところを評価するところ

- (11) 理非曲直
- 26
- ① 理想の姿と現実の姿
 - ② 正しいことと正しくないこと
 - ③ 本音と建前が矛盾すること
 - ④ 論理的に不正を正すこと
 - ⑤ 誤った考えを即時改めること

- (14) 漸進的
- 27
- ① 順を追って少しずつ進むこと
 - ② 確実に進歩すること
 - ③ 今までとすっかり変わることに
 - ④ 注意深く行動すること
 - ⑤ 常に変化し続けること

問3

傍線番号(4)「プラトンの思想と対比する」とあるが、プラトンとアリストテレスではどのように考えが違うのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

28

- ① プラトンは善のアイデアを実行する人は少ないと考えたが、アリストテレスはかなり多くの人が実行できると考えた
- ② プラトンは政治の原理は善のアイデアにあると考えたが、アリストテレスは善のアイデアという考え自体を否定した
- ③ プラトンは大衆は哲人王の命令に従うべきだと考えたが、アリストテレスは哲人王が大衆の命令に従うべきだと考えた
- ④ プラトンは権力を一人の哲人王に集中させるべきだと考えたが、アリストテレスはその危険性の大きさを指摘した
- ⑤ プラトンは政治にアприオリな原理があると考えたが、アリストテレスは絶対王制という体制を否定した

問4 傍線番号(5)・(8)・(12)・(15)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

29
 ↓
 33

(5)

トナえ
 29

- ① 万歳を三シヨウウする
- ② 法廷でシヨウ言台に立つ
- ③ 事件のシヨウ細を知る
- ④ 安全を保シヨウウする
- ⑤ 友人にシヨウ介する

(12)

試コウ
 31

- ① 事情をコウ慮する
- ② 意コウを打診する
- ③ 哲学を専コウする
- ④ 食品を加コウする
- ⑤ 親に孝コウする

(8)

言キユウ
 30

- ① キユウ人広告を見る
- ② 広く普キユウする
- ③ ゆつくりキユウ養する
- ④ キユウ急車を呼ぶ
- ⑤ 研キユウに没頭する

(15)

識ケン
 32

- ① ケン実な考え方
- ② ケン著な功績
- ③ ケン全な経営
- ④ ケン聞を広める
- ⑤ ケン案事項を伝える

(16)

無シ
 33

- ① シ野を広げる
- ② シ命を帯びる
- ③ 有シを募る
- ④ 公シを混同する
- ⑤ 新しいシ策を考える

問5 空欄番号

6

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 介在
- ② 滞在
- ③ 偏在
- ④ 所在
- ⑤ 内在

問6

傍線番号(9)「是認」とあるが、これの反対語として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 是非
- ② 否定
- ③ 是正
- ④ 容認
- ⑤ 否認

問7

傍線番号(13)「誰か偉い人が現れて、一どきに理想的な国家ができ上がる、などということはありえない」とあるが、なぜ「ありえない」のか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 人間は理性だけの存在ではありえず、哲人王のような人間がいるはずはないから
- ② 一人の理想の王よりも、大衆の知恵による方が、理想の国家は早く実現するから
- ③ 哲人王のような存在は確かにあるとしても、多くの中から探し出すのは至難の業だから
- ④ 理想の国家を支えるのは哲人ではなく、政治の原理である善のアイデアの認識だから
- ⑤ 人間は誰も理性的動物ではなく、従って物欲や権力欲を完全には排除できないから

問8 傍線番号(17)「アリストテレスの肯定する『国制』」とあるが、「国制」についてのアリストテレスの考えの説明として、最

も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

37

- ① デモクラシーは国制としては未成熟なので、完璧な支配者による絶対王制を、最善の国制として追求し続けるべきである
- ② 富裕層が、貧困なほとんどの市民に対して寛容な態度で臨み、教育を始めとする多大な倫理的努力をすれば、二極分解は避けられる
- ③ 人間は理性的動物なので、すべての人間がおのこの理性に従って行動することで、理想的な国家をつくり上げることができる
- ④ 自由で平等なすべての人間が、自分の生き方だけでなくその延長線上にある国家のあり方を決める支配権力と責任をもつ
- ⑤ 極端な富裕層や極端な貧困層をできるだけ社会から排除し、中間層が政治を担うことが、安定的な国家の建設には不可欠である

問9 筆者の「デモクラシー」についての考えの説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

38

- ① この体制を採用することによって、理想的な政治が約束されるので、古今を通じて最良の制度であるといえる
- ② 現実のデモクラシーには多くの欠陥があり、悪しき制度となるので、デモクラシーを超えた制度を実現させるべきだ
- ③ デモクラシーの成立には条件があり、多大な努力も必要となるが、もつとも安定的な体制であるといえる
- ④ 完璧な人間に国家の支配を委ねるべきだが、そういう人間が見つからない現状では、この制度に委ねざるを得ない
- ⑤ デモクラシーはすばらしい制度だが、理性の教育が前提条件となっており、実際に実現することには無理がある

問10 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

39

- ① アリストテレスがエンドクサを政治の基礎とするのは、不完全な人が集まれば完全なものになるからである
- ② 市民の一人一人が公共のマナーを守り、自分の行動に責任を持つことが、デモクラシー成立の条件である
- ③ どんな凡人でも、人間はどこかに理性を持っており、長い努力の果てには絶対的真理へ辿り着くものである
- ④ アリストテレスは、豊かな市民が正義の原理に基づいて行動し、自由な行動を慎むことが理想だと考えた
- ⑤ すべての人間は、自分の生き方と、その延長上にある国家のあり方に対し、倫理的な責任を負っている

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

小田原といふ寺に、教懐聖人といふ人ありけり。後には、高野に住みけるが、新しき水瓶みづがめの(1)、様なども思ふ様なるを儲たくわけて、殊に執し思ひけるを、縁に打ち捨てて、奥の院へ参りにけり。かしこにて、念誦ねんじゆなんどして、一心に信仰しける時、この水瓶を思ひ出だして、(2)「あだに並べたりつる物を、人や取らん」と不審ふしんにて、心、一向いっかうにもあらざりければ、よしなく覺えて、帰るや遅きと、あまだりの石だたみの上に並べて、打ちくだき捨ててけり。

又、横川に、尊勝の阿闍梨あじやり陽範といひける人、めでたき紅梅を植うゑて、(4)またなき物にして、花ざかりには、ひとへにこれを興(5)じつつ、自ら、人の折るをも、ことに惜しみ、さいなみける程に、いかが思ひけん、弟子なんどもほかへ行きて、人も無かりけるひまに、心もなき小法師の一人ありけるを呼びて、「よき(注1)やある。(6)持て来よ」と言ひて、この梅の木を土きはより切つて、上に砂打ち散らして、跡形なくて居たり。弟子、帰りて、驚き怪しみて故を問ひければ、(7)「よしなければ」とぞ答へける。(8)これらは、皆執をとどむる事を恐れけるなり。教懐も陽範も、ともに往生を遂げたる人なるべし。実に、仮まじの家にふけりて、長(8)き闇やみに迷ふ事、誰たれかは愚かなりと思はざるべき。然れども、世々生々に、煩惱のつぶね・やつこと(注2)なりける習ひの悲しさは知りながら、我も人も、え思ひ捨てぬなるべし。(9)

〔『発心集』による〕

(注1) よき——斧おののこと。

(注2) つぶね・やつこ——いづれも、召し使いのこと。

問 1 傍線番号(1)の「の」と文法的に同じものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① 年いみじく老いたるおとのおと白髪まら白きが、その死人のまら枕上がみにゐて…。
- ② 二十一日、卯うの時ばかりに舟出だす。
- ③ いかなれば四条大納言よしかのはめでたく…。
- ④ 家のうちなる男君おとこの来きずなりぬる、いとすさまじ。
- ⑤ 麓ふもとに一つの柴しばの庵はげあり。

問 2 傍線番号(2)・(7)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。

41

・

42

- (2) あだに
- 41
- ① 丁寧ていねいに
 - ② いい加減いっかげんに
 - ③ 大切たいせつに
 - ④ おおっぴらおおっぴらに
 - ⑤ 急いそいで

- (7) よしなれば
- 42
- ① 風情ふうせいがないので
 - ② 由緒よしゆがないので
 - ③ 方法はうほうがないので
 - ④ 意味いみがないので
 - ⑤ 興味きょうみがないので

問3 傍線番号(3)・(9)の解釈として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

43

44

(3) 人や取らん

43

- ① 人が取ってしまいうに違いない
- ② 人が取るのではないだろうか
- ③ 人は取らないだろう
- ④ 誰が取るだろうか
- ⑤ 誰か取っているだろう

(9) え思ひ捨てぬなるべし

44

- ① 思い切れないのだろう
- ② 思い切れないはずはない
- ③ 思い切ってしまうのだろう
- ④ 思い切らなくてはいけなかった
- ⑤ 思い切ることができなかった

問4 傍線番号(4)・(5)・(6)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

45
①
47

(4) 植ゑて

- ① ヤ行下二段活用動詞の連用形＋助詞
- ② ワ行下二段活用動詞の連用形＋助詞
- ③ ワ行上二段活用動詞の連用形＋助詞
- ④ ワ行下二段活用動詞の已然形＋助詞
- ⑤ ヤ行下二段活用動詞の已然形＋助詞

(5) 興じつつ

- ① サ行四段活用動詞の連用形＋助詞
- ② サ行四段活用動詞の連用形＋完了の助動詞の連用形＋助詞
- ③ サ行変格活用動詞の未然形＋完了の助動詞の連用形＋助詞
- ④ サ行変格活用動詞の連用形＋完了の助動詞の連用形＋助詞
- ⑤ サ行変格活用動詞の連用形＋助詞

(6) 持て来よ

- ① カ行変格活用動詞の命令形
- ② カ行変格活用動詞の命令形＋助詞
- ③ カ行変格活用動詞の終止形＋助詞
- ④ カ行四段活用動詞の命令形
- ⑤ カ行四段活用動詞の命令形＋助詞

問5 傍線番号(8)「長き闇に迷ふ事」とあるが、どのような状態のことか。具体的な説明として、最も適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

48

- ① 人が信じられないため疑念を抱き続けてしまうこと
- ② 死を恐れるあまり生に執着し続けてしまうこと
- ③ 来世での幸福のためにこの世で我慢し続けること
- ④ 煩惱のために迷い苦しみながら生き続けること
- ⑤ 自分の浅ましさとこの世の無常に苦しみ続けること

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

49

- ① 教懐も陽範も、この世での執着を恐れ、それを乗り越えた徳の高い人であったが、往生できたかどうかはわからない
- ② 教懐が水瓶を壊し、陽範が紅梅を切ったように、人は一番大切なものを切り捨てることで往生することができる
- ③ 教懐が手に入れて大切にしていた水瓶を碎き、陽範が愛^めでていた梅を切らせたのは、執着を捨てるためである
- ④ 煩惱に振り回されることの悲しさを知ったものは、教懐と陽範のように誰もがその苦しみから脱することができる
- ⑤ すばらしい水瓶を碎いた教懐も、見事な梅を切らせた陽範も、物欲は一切感じたことのない立派な高僧であった